



初等部だより 2月号

鎌倉女子大学初等部
令和7年1月31日
第11号

まだ二か月。それとも、わずか二か月。

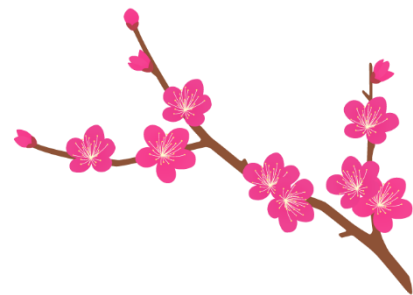
部長 目崎 淳

早いもので三学期が始まって一か月が経ちました。数えてみたところ、登校日の残りは32日となりました。6年生はその3日前に卒業式が行われますので29日となります。「一月往ぬる二月逃げる三月去る」と昔から言われていますが、これは正月や節分などが目白押しである一月から三月までの時期は、時間の流れが早く毎日があつという間に過ぎ去るとたとえた言葉です。晴れやかな気持ちで間もなくやってくる春を迎えられるよう、一日一日を大切に過ごしてほしいと思います。

その節目である節分ですが、今年は2月2日です。(2月3日と決まっていると思っている人も多いかもしれませんが、4年前も2月2日が節分でした。)「立春」という春が始まる日を迎える前に厄を払い、新しい季節を清々しい気持ちでスタートする。そして心や体の健康を願って「鬼は外、福は内」という掛け声とともに行う豆まき。古くから残る日本の風習にふれてはいかがでしょうか。

毎朝、児童の登校時間に合わせて校門に立ち始めて4年が経とうとしています。暑い日もあれば大雨の日もあります。そのような日も校門に立っていますと、子どもたちは制帽を脱ぎ「おはようございます。」「今日も一日よろしくお願いします。」と一礼をし、元気な声であいさつをしてくれます。あいさつはコミュニケーションの第一歩です。気持ちのよいあいさつができるよう指導しています。子どもたちの元気な「あいさつ」の声を聞くと、朝からパワーが出て、自然と笑顔になれます。時には、登校途中で転んでけがをしまったり、体調を崩してしまったりした子を、上級生が寄り添いながら一緒に学校まで連れてきてくれることもありました。(その子は上級生

がそばにいてくれたことで安心していました。)中・高等部生の落とし物を見つけて拾い、届けてくれたこともありました。また、私がいつも校門に立っていることに「いつもありがとうございます。」と気持ちを伝えてくれる子もいました。どれも大切な学校の日常です。これからも当たり前の日常を大切にしていきたいと思います。



さて、先日、元メジャーリーガーのイチロー選手が日本野球殿堂入りを果たし、その数日後には日本選手初のアメリカ野球殿堂入りを果たしました。そのイチロー選手の言葉に次のようなものがあります。

夢をつかむというのは一気にはできません。ちいさなことを積みかさねることで、いつの日か、信じられないような力を出せるようになっていきます。

イチロー選手は、子どもの頃からずっと、日々の練習で人一倍努力してきたそうです。毎日の積み重ねが、いつか大きな力になっていくことでしょう。夢の実現のスタートは小さな一歩からです。三学期はまとめの時期です。次の学年に上がるまで、まだ二か月あります。4月から取り組んできたことを振り返り、できるようになったこと、まだできていないことを整理して、この一年間がんばったと言えるようになることを願っています。